

検知活動時の誤検知対応

検知資機材が識別できる化学剤等のみを検知することが理想であるが、検知資機材の特性上、干渉ガスが存在し、誤検知（偽陽性）を示すことがある。誤検知（偽陽性）の認識と対策を講じることで、ゾーニングの判断、防護措置の選定、除染・救命処置のほか、活動の長期化の軽減など災害対応にも大きく影響してくるものと考える。

例：IMS検知機は、感度が高い一方、類似するイオン移動度を持つ物質に対して、偽陽性を起こしやすいなど

<誤検知（偽陽性）の対策>

- | | |
|--------------|---------------|
| ①検知資機材の精度の向上 | ②検知資機材の特性等の理解 |
| ③状況判断能力の向上 | ④干渉ガスリストの活用 |

各消防本部で対応可能な項目は、「②～④」と考える。

■検知資機材の特性等の理解

- ア。「感度は高いが、偽陽性が出やすい」、「資機材の構造上、検知に向いている物質と向いていない物質がある」など、自隊が保有する検知資機材の特性を理解する。
- イ. 検知原理の違いにより、活用場面が変わってくることを理解する。

■状況判断能力の向上

- ア. 現場で収集した情報、周囲の状況・環境等から原因とされる物質を推測する。
- イ. 化学剤等の有無、種類などを判断するために、検知結果と症状を呈する者の身体的所見等を照らし合わせる。

■干渉ガスリストの活用

- ア. 検知資機材の種類は、多数取り扱われており、消防本部の部隊規模、NBC災害活動体制、地域の実情等から各消防本部が保有する検知資機材は様々である。また、技術の発展等により、最新の検知資機材が開発され、必要に応じて更新等がなされる。
- イ. 検知資機材の検知原理は同じであっても、特性が違うことで干渉ガスが異なる。（共通した干渉ガスを例示することが困難である。）
- ウ. 検知資機材ごとにメーカー等が作成した干渉ガスのリスト等を活用する。
 - ※マニュアルには、一部の検知資機材について、干渉ガスと検知結果を示し、検知資機材の特性上、誤検知する旨の認識を促すとともに、対処法の例を示す。
 - 例 1. GX6000 のシアン化水素センサーは、硫化水素で数値が表示されるため、硫化水素が共存していないか確認する。
 - 例 2. LCD3.3 は、サリチル酸メチルでHD（マスタード）を示すため、HAZMAT IDで液体部分を分析する。

以上を踏まえて、

- ※ 教育訓練用として、一部の検知資機材の取扱い動画を作成し、適切な操作、取扱要領を身に付けて、機器の誤操作等による誤検知を防止する。
- ※ 今回のマニュアル改正に併せて、検知資機材によって誤検知する旨や、参考として実例を示し、誤検知に対する理解を深める。